

ふれあい中須2

中須小学校校舎

中須の人口

前月比

男 260人 (-1人)

女 296人 (-0人)

総人口 556人 (-1人)

世帯数 321世帯 (-1世帯)

高齢化率 62.4%

(12月31日現在)



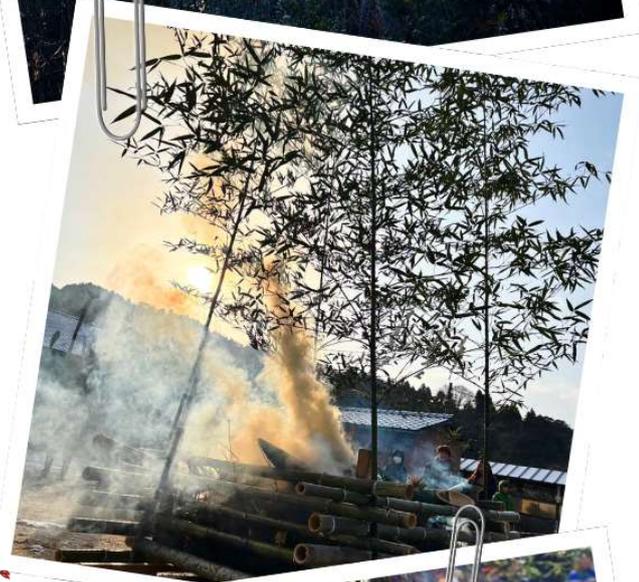


中須地区 年始の行事

1月1日(水)に「おだいし山に登ろう会」が実施されました。

当日は中須八幡宮の境内に集まり、そこから参加者みなでお大師様にご挨拶をしながら、頂上を目指して登りました。

木が伸びているため、頂上からの景色は以前より見えづらくなっているようですが、隙間から見える青空がとても綺麗でした。



1月12日(日)には、どんど焼きが中須小学校のグラウンドで実施されました。

地区の方々がお正月に飾ったしめ縄や門松などをもち寄って焚き上げ、無病息災、家内安全を祈りました。

どんど焼きには、各家庭を訪れてくれた年神様を見送る送り火の意味も込められているようですので、当日たくさんの方々が集まり、にぎやかに見送りすることができてよかったです。





1月7日(火)に高橋くん、須々万中学校女子卓球部が、卓球競技での全国大会出場報告のため、市長・教育長表敬訪問を行いました。

高橋君は令和6年9月に萩市で開催された「令和6年度東京選手権及び名古屋オープン山口県予選会」に出場、ホープス男子シングルスで入賞し、1月に開催の「第54回後藤杯卓球選手権大会(名古屋オープン)」への出場を決めました。

全国大会出場おめでとうございます！

12月26日(木)に中須地区民生委員・児童委員協議会の主催で「正月しめ縄かざり教室」が開催されました。

当日は、中須地区の小中学生とご家族、作り方を教える方など、たくさんの方が集まって制作を行い、それぞれ立派なしめ縄飾りを作り上げていました。

ご参加された皆様、お疲れさまでした！

2・3月の行事予定

月日	内容	場所	備考
2月12日(水)	移動図書館	中須市民センター	13:30
3月1日(土)	やまびこ号	駐車場	~14:00

1/18 中須地区地域計画案説明会



👤 今月のひとこま 👤

先日、CCSの情報番組「これくと」より本誌「ふれあい中須」に関しての取材があったため、制作についてなどインタビュー形式で回答させていただきました。

12月号でお伝えした、公民館報コンクールの受賞の件や、表紙の写真についてなど色々とお答えさせていただいております。

2/3(月)18:00~2/10(月)12:00までの1週間に、1日4回(7:00、12:00、18:00、20:30)

番組の中で今回のインタビューが5分程度放送予定となっています。

なかなか自分の住む地域の広報誌が取材されることもないと思いますので、ご興味ある方はご覧になられてみてください。



1月18日(土)に中須地区地域計画案説明会が開催されました。

令和5年から6年にかけて地区で話し合いをした結果や、意向調査等をもとに作成した地域計画案の説明が行われ、集まった多くの方々が、計画案をもとに改めて確認や話し合いを行い、今後の農業・農地利用の方針を考えました。

インクカートリッジ里帰リプロジェクト

家庭用プリンターの使用済みインクカートリッジ（ブラザー、キャノン、エプソン、日本HPの純正品に限る）のリサイクルを推進する事業の回収箱を中須市民センターの入口に設置しています。



廃棄予定の上記4社のインクカートリッジをお持ちの方で、取り組みにご賛同いただける場合はこちらの回収ボックスをご利用ください。

このプロジェクトは、循環型社会の形成に貢献するため、多くが家庭からの一般ごみとして捨てられている使用済みのインクカートリッジを、お客様の身近な場所からプリンターメーカーが共同で効率的に回収し、再資源化（パレット、コンテナ、建築資材など）を促進するものです。

インクカートリッジ里帰リプロジェクト

私たちは環境保全のために、ご家庭の使用済みインクカートリッジ回収、再資源化活動をおこなっています。皆さまのご協力をお願いします。

brother

Canon

EPSON

hp

上記プリンターメーカー4社の純正品が回収対象です。

B 公益財団法人
日本野鳥の会

当プロジェクトは「日本野鳥の会」の推進する自然保護活動を応援しています。

日本野鳥の会の活動を見よう

←活動紹介はコチラ



中須回顧録

vol.
26

こちらは、今から43年前の1982年の2月11日に行われた中須地区コミュニティ推進組織（中須をよりよくする会）の設立総会の様子です。

旧徳山市の地区の多くが、この年度にコミュニティ組織を設立しており、翌年度には、旧自治省（現総務省）がコミュニティ推進地区を設定し、全国的にコミュニティの拡大を目指すなど、1970年ごろから始まった高齢化社会を背景に、地域コミュニティの設立推進が行われていたようです。